長崎若手の会参加者　2014.3.8

No.	卒回	氏名	勤務先
1	学 34	森田　孝明	長崎県庁
2	学 39	大瀬良　潤	長崎県庁
3	学 42	香月　康夫	長崎県庁
4	学 43	徳永　真一	長崎県庁
5	学 60	堤田　翔太	長崎県庁
6	学 48	内野　恵	長崎県庁
7	学 37	佐藤　誠治	NEC
8	学 37	日向　淳一郎	長崎市役所
9	学 49	首藤　充	長崎市役所
10	学 54	立山　裕一	長崎市役所
11	学 42	北村　真也	㈱親和銀行
12	学 45	山口　順市	㈱親和銀行
13	学 40	平野　剛	長崎市議会議員
14	学 40	麓　浩二	㈱ライフコンパス
15	学 58	後藤　誉志	大村市役所
16	学 40	野濱　哲二	(福)致遠会
17	学 42	北村　靖幸	㈱十八銀行
18	学 53	竹山　旭	㈱十八銀行
19	学 60	西田　隼人	㈱十八銀行
20	学 61	山本　詩織	㈱十八銀行
21	学 61	河西　宏平	㈱十八銀行
22	学 54	西川　洋志	長崎バス情報サービス㈱
23	学 61	高木　伸吾	長崎バス情報サービス㈱
24		飯森　幸治	学生
25		亀井　真吾	学生
26		黒崎　滉一郎	学生
27		佐藤　将希	学生
28		田平　由布子	学生
29		古田　瑞歩	学生
30		松藤　健典	学生
31		美山 直輝	学生

長崎コン

1 午後1時すぎ、受付はピークに。最初に行く店は抽選によって決まるため、抽選箱から取り出した紙を真剣に見る参加者。2「長崎コン」がスタートするまで、浜の町のお店でメイクのレクチャー。これもイベントのひとつ。3 参加者の動員をスムーズにするのはボランティアスタッフ。お店の方との綿密な打ち合わせと、当日の息の合った連携プレーがモノを言う。4 参加者は黄色いリストバンドをしているのですぐにわかる。参加店のマップを片手に「次はどの店に行こうか?」と、楽しそう!5「まちを元気にしたい!」と集まった、総勢約50名のボランティアスタッフ。長崎名物カステラをイメージした黄色Tシャツがひときわ目立つ。さぁ!いよいよ長崎コンのスタートです!

http://nagasaki-con.com/

長崎コン 実行委員会 × 浜の町若手経営者有志

出会いから始まる、元気なまちづくり。

7月21日の午後2時。ランチタイムが終わった昼下がりの浜の町に、「かんぱーい」の声が広がる。キーンと冷えたビールを一緒に味わう相手は、今日初めて会う人ばかりだ。「どこから来たと?」「仕事は何してる?」「この店、いい感じだね」。初対面の男と女。ドキドキしながら過ごすこの時間がたまらない!

「長崎コン」とは、男性500人と女性500人が、約20店舗の店を巡りながら、美味しいお酒と食事を楽しみ、交流する長崎史上最大のメガ合コンだ。それも、仲間との親睦を深めることや出会いを求めるだけの通常の合コンとは違い、新しい店を知り、その街の面白さを知ってもらうという「地域活性化」をテーマに挙げているのも魅力だ。そのため、浜の町の若手経営者のショップと手を組み、商品がもらえるじゃんけんイベントや恋愛力アップセミナーなどを開催。いろんな店に足を運んでもらえる仕組みも考案している。「このまちは楽しい!と思えるような見せ方や、やり方を考えること。それがまちの元気につながるはずです」。こう話すのは実行委員長の下川卓郎さんだ。30歳という若さながら、熱意を持ったその語り口調から多くの賛同者を得てきた。なぜ、このようなイベントを開催することになったのか。「東京から3年前に長崎に戻り、高齢者向けのサービスを行う個人事業を立ち上げました。がむしゃらに働いているうち、まちや長崎のことで何か発展的な話ができる友達が欲しいなぁと思ったんです。そして多くの人が集まり、いろんな会話が楽しめるイベントができたら…。それをツイッターやフェイスブックで問いかけたら、最初10人が「いいね」と集まって。今ではこの活動の中心となって頑張ってもらっています」。「長崎コン」のボランティアスタッフは全部で約50名。学生から社会人までさまざまな立場の若者が「まちを元気にしたい」という同じ思いで集まってきた。

知りたい!と、知ってもらいたい!

「長崎コン」に参加している方に魅力を聞いてみた。「やっぱり、1000人も集まるから、安心して参加できちゃう」「恋愛まで発展するような出会いがほしい」「知らないお店でも、こんな企画だと入りやすい!店を知る楽しさもありますね」。参加者それぞれの期待がこの「長崎コン」に込められていた。

それでは、店側にとっての魅力とは!?「やっぱり、店を知ってもらわんと客も来てくれんけんね。きっかけづくりには本当によか企画ばい。でも1000人やろ? 台所は戦場ばい(笑)」「広告を出すのもいいけど、実際に来てもらった方が、店の場所と雰囲気をしっかり頭にインプットできるやっかね。それがよかね」。知りたい!と思う参加者と、知ってもらいたい!という店側の希望がまさに合致する仕組みは、地域活性化へとつながる大きな一歩ではないだろうか。このような「街コン」は、今や全国区で注目を集め、ビジネスとして成り立つケースも存在する。浜の町の若手経営者も、「まちに若者がたくさん集まれば…」とこの企画を応援している。一方、下川さんと実行委員会メンバーの西川さんはこう話す。「長崎コンの活動は、地域の方の理解がないと成功しません。人をどう楽しませるか…。それをいっしょに考え、提供してくれる地域の皆さんが必要不可欠です。幸いにも、私たちは同年代の若い経営者たちとお話しする機会があり、元気なまちづくりに対して何ができるかを語り合ってきました」。地域の皆さんとのゆるぎない人間関係の構築。それこそが、「長崎コン」を支える大きな原動力になっているのだ。

長崎コン実行委員会
代表 下川 卓郎 さん(左) 西川 洋志 さん(右)